

年間第三主日

2010.1.24

(ルカ 1・1-4,4・14-21)

今日は年間第三主日の日曜日です。毎年年間の主日では、マタイ、マルコ、ルカの三つの福音書の中に語られている、受難に至るまでのイエスの宣教活動における主な出来事の順を追って、イエスの歩まれた足跡をたどり、福音書の中で直接イエスに語りかけられた人々と同じように、私たちも日曜日のミサのたびごとに、福音書を通して語りかけておられるイエスのみことばに耳を傾けてまいります。今年の年間主日のミサではルカ福音書が朗読されるように定められています。今日はルカ福音書の最初に置かれている、いわゆる献呈のことばの部分と、宣教活動の開始を告げる、ナザレの会堂でのイエスの最初のみことばが朗読されました。

ルカ福音書の最初の献呈のことばの部分と、ナザレの会堂でのイエスのみことばに共通して響いているのは「実現した」ということばです。「実現した」ということばは、「実現している」という意味にもなります。ナザレの会堂での場面に注目すると、会堂にいる人々はイエスの朗読された旧約のイザヤ預言書のことばに耳を傾けていましたが、イエスはその人々に向かって、「この聖書のことばは、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」、つまり、実現していると言われたのです。会堂内にいた人々は、イエスのこのことばをいぶかしく思って、あたりを見回したかも知れません。けれども、イエスが言われたようなことが起こっている気配はどこにも感じられず、そこにはただイエスが座っておられるだけです。不思議に思って、今聴いたイザヤ預言者のことばを心のうちにもう一度反芻してみた人々は、イエスが言っておられることの意味が分かって、大騒ぎになったに違いありません。事実、今日の福音に続くルカの箇所を読むと、人々はイエスが語られることに感嘆しながらも、「この人はヨセフの子ではないか」と口々に言い出したと語られています。「この聖書のことばは、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」とイエスが言われたのは、ご自分のことを指して言われたことばだったのです。旧約の預言者のことばは、ご自分において実現しているとイエスは主張されたのです。

ナザレの会堂での、イエスのこの最初のことばを伝えるルカ福音書の記者は、その福音書の読者である私たちに、イエスとはこのようなお方であると、イエスを紹介しているのです。つまり、イエスとは、彼において旧約聖書の預言者が告げていたこと、すなわち、旧約の神の民を導かれた主なる神、イエスが父とお呼びした神の約束が実現しているお方であると語っているのです。「実現した」ということばは、そのような意味で用いられているのです。

ルカ福音書の最初の献呈のことばに戻って、もう一度読み直してみると、ここでは、「私たちの間で実現した事柄について、最初から目撃してみことばのために働いた人々が私たちに伝えたとおりに・・・」と言われており、ここでも、ルカ福音書の記者の念頭には、イエス・キリストにおいて実現したことがあると察することが出来ます。「最初から、私たちの間で実現したことを目撃しており、みことばのために働いた人々」とは、イエス・キリストがもたらされた福音の宣教者となったイエスの弟子である、使徒たちのことを指していると理解することが出来ます。イエス・キリストというお方において、旧約聖書の中で神が約束しておられたことは、すべて実現している。これはルカ福音書がその中において書かれた最初の教会のイエス・キリストというお方に対する最も中心的な信仰宣言です。イエス・キリストに対するこのような信仰を見出したことによって、キリスト教の教会は、そのようなイエス・キリストに対する信仰を認めない、旧約聖書の神への信仰の担い手であったユダヤの人々と袂を分かって、新たに、イエス・キリストを信じる者たちの教会として誕生したのです。それは過去の出来事であるだけでなく、私たちは今日のルカ福音書に書き記された、最初の教会から受け継がれてきたイエス・キリストへの信仰を受け入れて、カトリックの信者となったのです。

ここまでは、ある程度の知識を持って、聖書を素直に読むことが出来る人なら、カトリックの信仰を持っていなくとも理解できることかもしれません。けれども、私たちのカトリックの信者としての信仰は、ここで終わるものではありません。どういうことかと言うと、ナザレの会堂でイエスが語られたことは、あの時と同じように、今日このミサに集っている私たちの間で、このミサにおいて実現していることを私たちは喜び祝っているのです。

このミサの中で私たちが喜び祝っているのは、イエスの十字架の死と復活によって私たちにもたらされた、私たちの救いとしての、罪と死の束縛からの解放です。この世の生を生きる私たちを束縛しているあらゆる束縛のおおもとにあるものは、私たちがいのちの源である神に逆らって生み出した罪とその結果としての死であると、聖書は旧約、新約の全編を通して語っています。そして、私たちが苦しめるこの罪と死の束縛はイエス・キリストの十字架の死と復活によって示された神のゆるしと愛によって打ち破られ、私たちは神のいのちを生きる神の子らとされていると、福音に基づく教会の信仰は私たちに告げているのです。

ナザレの会堂でイエスが朗読された預言者イザヤのことばは、イエスによって目が見えるようにしていただいた人にとってだけではなく、イエスによってその人を縛る束縛から解放されたすべての人にとって実現していると今日のルカの福音書は語っているのです。

願わくは、ナザレの会堂で「この聖書のことばは今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」とイエスが言われたことが、わたしたちがこのミサにおいて、イエス・キリストによってもたらされた、私たちの解放を記念するこの日の今日のこととなりますように。そのために、私たちの信仰の目が開かれ、私たちがこのミサで祝っていることが、私たちのカトリック信者としての信仰とどのように関わっているのか、そして、私たちの信仰は、私たちの日々の生き方とどのように関わるものであるかを悟ることが出来ますように。私たちが私たちに縛る束縛から解放される唯一の道は、イエスがそうされたように、愛をもってその束縛と思われるものを担いとおし、愛によって自らのいのちをそのために与え尽くすこと以外にはないことを悟り、そのための力をこのミサにおいて汲み取ることが出来ますように、自らのために、そしてお互いのために祈りあいたいと思いを思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高